

R5年度 学校関係者評価から

# 次年度 学校経営改善の視点



足立区立桜花小学校

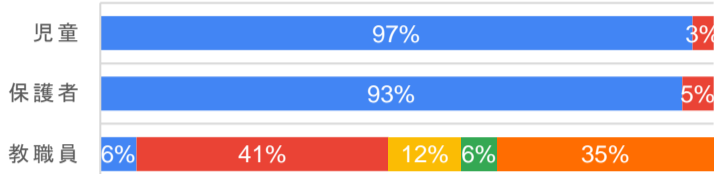
## 【肯定的評価の高い項目内容について】

■あてはまる ■ややあてはまる ■ややあてはまらない ■あてはまらない ■わからない

本アンケートについての回答は、「あてはまる」～「あてはまらない」の4段階について達成度を選択する形式である(「わからない」の回答も可)。4

### 17 家庭は、朝食を食べさせてから登校させていますか

■あてはまる ■ややあてはまる  
■ややあてはまらない ■あてはまらない  
■わからない

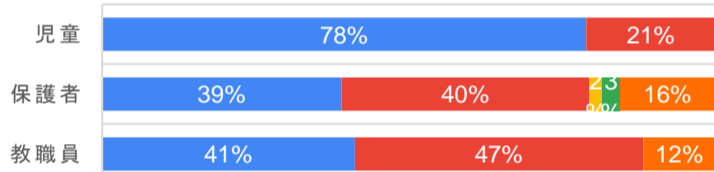


【肯定的評価割合】児童100% 保護者98% 教職員47%

本年度は、コロナ禍3年間に生じた授業時間減少を補うため、1年間の週あたり1時間の特設授業(3年生以上は木曜日7校時)を設定したことから、登校時間も15分早め8:00～8:10とした。朝の最も忙しい時間に保護者の方々も協力していただき、児童の回答を見てもほぼ全員が毎日朝ご飯をしっかり食べてから、学校に来ていることがわかる。各家庭のご協力を大変にありがたいと感じている。令和6年度から一昨年度と同様の時間割に戻し、朝の登校時間を8:15からとする。これにより毎朝、登校時間を過ぎてから遅刻して教室に入る1割弱の児童が減少することを期待する。学級の児童の様子について担任が家庭との連携を含めて生活の様子をさらに見とれるようにしていきたい。

### 6 学校は、わかりやすく、子供の学力を伸ばす授業を行っている

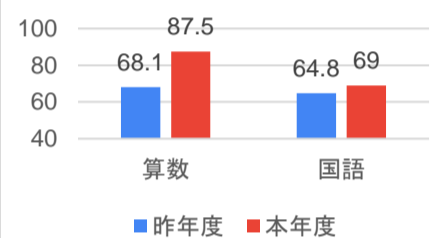
■あてはまる ■ややあてはまる  
■ややあてはまらない ■あてはまらない  
■わからない



【肯定的評価割合】児童99% 保護者79% 教職員88%

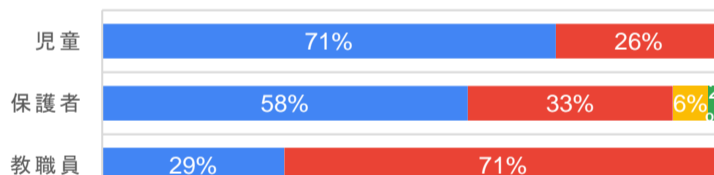
例年2月に実施している校内学力テストの結果(下グラフ)であるが、週あたり1時間の特設時間の設定や「桜花タイム」(放課後学習)による学力定着の取り組みによる効果が確認することができた。児童99%が、わかりやすく学力を伸ばすことのできる授業を受けていると捉えており、学習している内容がわかりやすく力をつけていると実感できていることがわかる。教職員も88%と比較的高い数値となっており、わかりやすい授業を工夫している姿勢が強く伺われる。ただし、保護者の肯定的回答は、79%にとどまっており、「わからない」(16%)を含めた保護

昨年度との通過率のちがい



### 1 児童は、仲良く楽しく学校生活をおくっている

■あてはまる ■ややあてはまる  
■ややあてはまらない ■あてはまらない  
■わからない

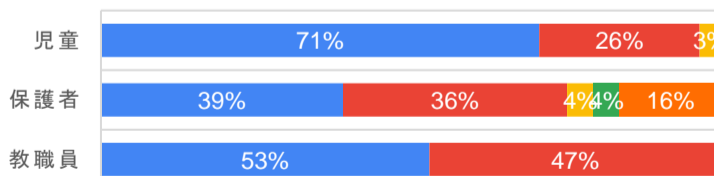


【肯定的評価割合】児童97% 保護者91% 教職員90%

児童・保護者・教職員の全てから肯定的評価90%の高い割合を獲得することができている。児童は「自分が大切にされていることを実感できる学校」「朝起きて、学校に行きたくて仕方がないと思える学校」を構築していきたいとの願いをある程度達成できていることにご家庭の協力・全教職員の姿勢に感謝をお伝えしたい。ただし3%の児童、1割弱の不登校傾向(年間を通して30日以上欠席)児童について、今後更に学校生活面での学習両面での居心地のよさや達成感を強く感じることができるよう一人一人に目を向けた具体的な手立てを学校全体で進めていきたい。区としても「hiperQU」(子供の学校生活における居心地の良さ)を判断するための調査を年に2回実施しており、そうした指標も活用しながら児童個々の様子を丁寧に見取り、友達関係を含めた学校生活の充実改善に取り組んでいく。

### 11 学校は子供の健康増進や安全確保の様々な配慮を行っている

■あてはまる ■ややあてはまる  
■ややあてはまらない ■あてはまらない  
■わからない

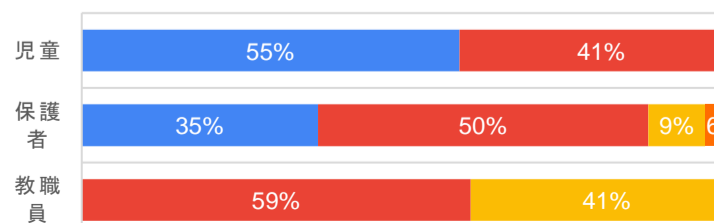


【肯定的評価割合】児童97% 保護者74% 教職員100%

コロナ禍明けの初年度として、児童97%・教職員100%が児童の健康増進・安全確保の様々な配慮を行っているとの肯定的割合が高いことから、同内容についての取り組みが継続されていることがわかる結果となった。年間を通してコロナだけではなく、インフルエンザや胃腸炎など複数の要因で学級閉鎖等を余儀なくされる場面があり、今後も児童の欠席状況を早期に把握し、学校生活での集団感染を防ぐための判断を来年を続けていく必要が感じられる。学校医や近隣小中学校、保育園・幼稚園との連絡体制を今後も更に強め、家庭からの報告を細かく受け取ることのできるシステム作りなど、家庭と密に連絡を取り合いながら児童の健康・安全に留意していく。

### 3 児童は、集団で生活する時の、ルールやマナーが身に付いている

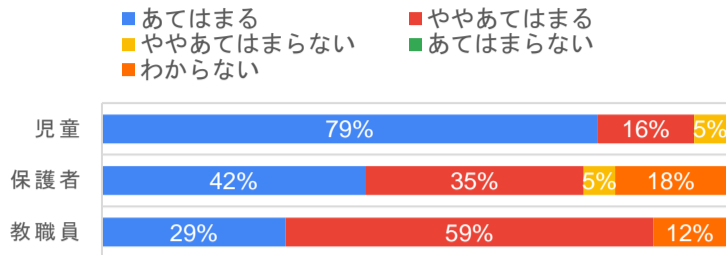
■あてはまる ■ややあてはまる  
■ややあてはまらない ■あてはまらない  
■わからない



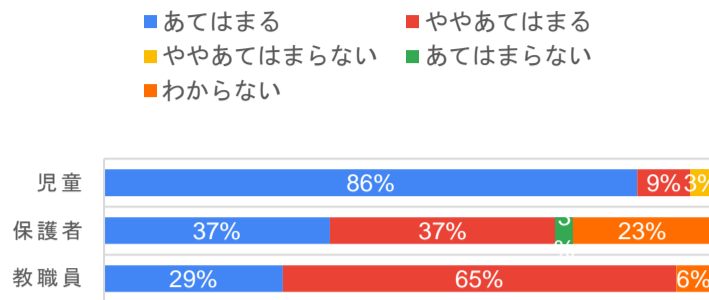
【肯定的評価割合】児童96% 保護者85% 教職員100%

児童・保護者の両者から高い肯定的評価を受けているだけでなく、教職員も100%の回答であることから、集団生活における規律意識は全体として高まってきていると判断することができよう。実際、各学級での授業場面を見ても年間を通して、どこの学級も落ち着いた様子で学習に取り組むことができおり、生活面での荒れも全体としてほぼ見られない健やかな姿が感じられる。本年度は、生活指導においても廊下歩行や挨拶、帽子着用などの重点とする5つの視点で児童に〇〇レンジャーを募り、自主的な活動の取り組みを工夫するなど意識醸成を図ってきた。まだ、挨拶をされれば、なんとなく小さい声で頷いたり、登校時に声をかけられて黄色い帽子をかぶるなど、一部の児童に「きまり」の意味と必要を実感し定着させる取り組みが必要な内容もあるため、今後も規律とマナーの大切さ等の定着を図っていく。

### 8 学校は、ICT機器（児童用タブレット端末・大型ディスプレイ等）を積極的に活用した授業を行っている



### 10 学校は、食育教育を工夫してすすめている



#### 【肯定的評価割合】

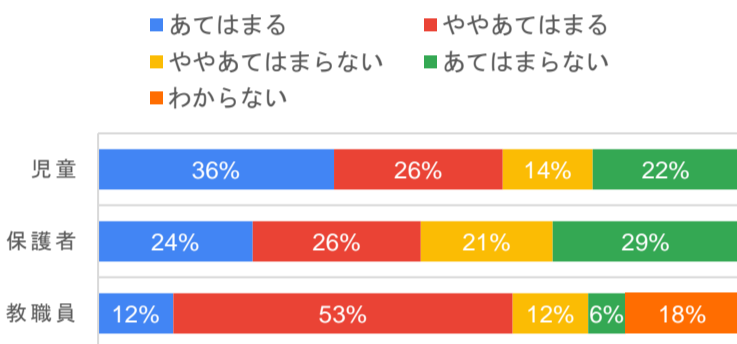
8・10の両項目とも児童の肯定的評価割合が95%と高い評価を得ているが、保護者についてはそれぞれ18、23%と「わからない」の割合が高くなっており、区教委や学校が重点として進めている内容について、日常的具体的な取り組みや児童の様子、効果などを更に積極的に家庭に伝えていく必要があることがわかる。他の項目内容も含めて検討する。

## 【肯定的評価の低い項目内容について】

■あてはまる ■ややあてはまる ■ややあてはまらない ■あてはまらない ■わからない

本アンケートの回答中、「あてはまる」～「あてはまらない」の4段階の内、達成度が低いとの回答があった4段階中、下位の「ややあてはまらない」及

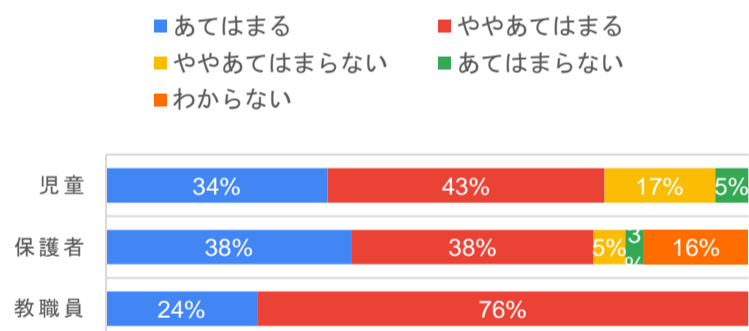
### 4 児童は、本に親しむ習慣がついている



【肯定的評価割合】 児童62% 保護者50% 教職員65%

大変残念なことに児童の肯定的評価62%と最も低い項目となった。保護者・教職員の評価も他項目と比較し低い数値となっている。2年前より区立図書館が作成配布している「読書通帳」を活用し、年間を通した読書活動の推進を図ってきている。この成果は低学年になるほど顕著で個々の読書量は飛躍的に高めることができた。一方でページあたりの文字数もページ数も増える4年以上の読書量については、その成果が限定的となっている。これまで本校でも朝の「読書タイム」の設定やボランティアや学校図書館支援員による本の紹介と読み聞かせなど、本に親しむための活動に力を入れてきている。但し、読書については当然個の活動であり、学校を離れている時間の過ごし方そのものが大きく影響し、各家庭で本に出会う機会や場を意図的につくったり、家庭自体に多くの本が整っていたりするなどの意識が大きく影響すると感じている。スマホやパソコンでSNSを見る時間が増大する中、児童の一日の過ごし方は大きな課題である。

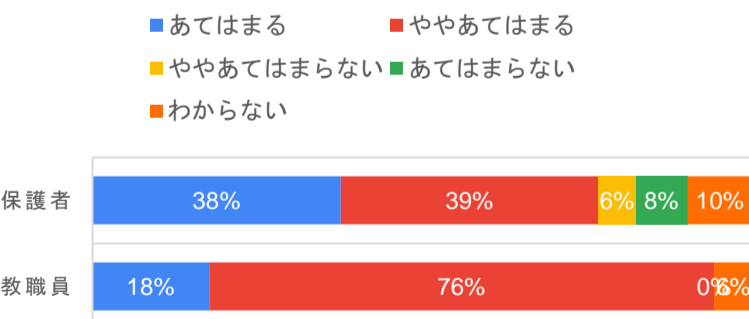
### 13 学校は、教室や校舎外の環境を整えている



【肯定的評価割合】 児童77% 保護者76% 教職員88%

児童の肯定的評価が77%と最も低い2項目の内の1つとなった。一方で教職員の肯定的評価は100%と大きな乖離が認められ、保護者の16%は「わからない」の回答となっている。校舎・校庭の環境改善については、児童の学校生活充実のため年間を通して区とも密に連絡を取り、その時々に必要な修繕等について優先順位をつけて要望を申請しているところであり、区も適性かつ真摯に対応を進めてくれていると感じている。ただ、日常的に学校事務職員が軸となって誠実に対応を進めているが、子供たちが直接教員を通して目に触れる毎日の直接的な教育活動とは異なり、環境整備を実感する機会が乏しい内容である。そうした、日常の教育活動を陰となり支える職員の様子を知り、実際に何をどのように行い毎日の活動を支えてくれているか理解する場を設定できていなかったことが反省の一つである。保護者についても同様に実際の環境整備の進展について理解頂く方法を工夫していく。

### 22 学校は、保護者にとって連絡や相談がしやすくなっており、それらに適切に対応している



【肯定的評価割合】 保護者77% 教職員94%

児童の評価はとっていない項目ですが、保護者の肯定的評価が77%と低い内容となっている。一方で教職員は94%の高い比率であり、乖離差の大きな項目の1つでもある。各教職員が必要に応じた家庭との連絡相談の機会をもっていると感じているが、保護者は適切な対応について十分に満足できていないという状況が見取れる。（今年のアンケート提出率が60%未満のため全体比率としての根拠は確実ではないが行って数回を確認できる）年間計画に基づいて実施する保護者会や個人面談（希望性を含めて年2回実施）以外に必要なのか、随時窓口を通して相談できる体制が改めて必要（現在も副校長が窓口となっている）であるのか、検討していきたい。もしくは、相談しにくい雰囲気があるということであれば、適時性が大切である児童への対応自体に支障生じる可能性があるため、別の形で保護者の声を把握する必要性を感じている。

# 記述による評価内容(保護者)

## 【肯定的な評価記述：保護者】

いつもお世話様になります。子供の日頃の様子や問題など気軽にお話してくださったり情報をくださり、とても有り難く思っております。感謝いたしております！
日々激務の中 いじめアンケート対応してくださり、ありがとうございます。
担任の先生がとても話しやすく相談しやすい。子供のこともきちんと見てくださっている。子供も懐いていて有難いです

## 【改善を促す評価記述：保護者】

担任教諭が宗教の文言を用いて授業を行っていた件で、保護者には書類一枚のみで説明がありませんでした。この件は学校の管理も甘く、軽い事案と考えておられるように思えます。PTA集会にて議題に上がる一案件かと思いますが、学校からの返答も曖昧で、このまま風化をさせていくおつもりでしょうか？誤魔化されていると思われると思います。法律にも反していることなので今後の対応を保護者に一度説明する事が必要と思います。そしてその対応の場があるのでしたら、早めに保護者には知らせるべきだと思います。学校まで出向かなくてもタブレットで保護者が参加するなど対応は今までの自粛生活でノウハウがあるはずで。個別に連絡ではなく本当に子供達のことを考えているのであれば、保護者全体にお答えいただきたいと思っております。 【校長回答】 大変ご心配をおかけする形になり申し訳ありません。。学校公開期間を含めて、経緯及び状況、学校としての今後の対応について学級保護者の方の中にご存じない方がいらっしゃる状況では申し訳ないとの考えから、学級のみでなく1学年全体の保護者に家庭通知を排出させて頂きました。文面にも記述させて頂きましたとおり、当該教員につきまして、管理職による直接指導を行っており、詳細についても区教育委員会に報告の上、学校としても指導を受けております。授業中の姿勢が整いにくい児童が多いことから、体幹を鍛え正しい姿勢を保つ意識を持たせるトレーニングを授業開始前に2週間程度継続して行っていました。その際ポーズの名称を「アーメンのポーズ」と名付け、児童にも同様の名称で声かけをしておりました。ただ、宗教上の意図や祈りなどの意図は全くなくそのような児童への説明もなかったことの確認ができたことから、公教育の禁止規定である「宗教教育」ではなく、名称についての当然の配慮意識が薄いことによる適切ではない名称使用であると判断しており、その上で十分な対応をしております。また、その旨を学年通知でお伝えし通知右下にご意見・ご質問等についての問い合わせ先として副校長を明記しておりました。その後3週間ご連絡等をお待ちする形をとりましたが、ご連絡くださった全ての保護者の方から、担任教諭を心配する内容と今回のことについての理解、学校対応への感謝等を申し訳なくも伝えてくださる内容であったことから、一応今回の件についてはいったん閉じさせて頂く判断を校長としていたしました。この場をお借りして、お声を頂いた多くの保護者の皆様にご感謝申し上げます。また、今回頂きましたご意見につきましても学校全体でさらなる改善を図ってまいりますと共にいつでも事前にご連絡上、ご来校頂ければいつでもご対応させて頂きますのでご遠慮なくご連絡ください。どうぞよろしくお祈いします。
---

学校で子供達に出されるプリント類は全てこちらのC4thにもpdfなどで出してもらいたいです。印刷が可能かどうかよりも、何をもち帰っていないかを知りたいので、持ち帰らない場合、誰かに見せてもらうなどは今の時代に合わないと思います、こちらで保護者が対応できるようにもしていただければと思います。 【校長回答】 ペーパーレス化の流れについては学校としても大切な内容だと捉えており、通常必要な連絡については、今後[class room]を通して行うことが多くなると考えています。また、全保護者に確認が必要な内容、緊急を要するまたは重要な内容については、学校ホームページ及び配信メールも並行活用する形となります。連絡については一元化する形である程度の統一を図る必要があります、その都度バラバラでは曖昧となり保護者が見落としやすくなるためです。但し、内容によっては紙面での連絡が適しているものやどうしても回収の必要性があるものも含まれているため、全てがデータ送信の形をとれないこともご理解ください。また、桜花小学校は教育の場であり、各学年の発達段階に応じて、必要なものをしっかり持って帰り、保護者に伝えたり届けたりすること、それを自身で確認することも教育上必要なことだと考えております。そうした教育上の配慮もある程度優先させて頂く形で今後の対応を進めていきたいと考えておりますので、どうぞご理解をよろしくお祈いします。
---

普通の学校生活や授業風景など、公開日や土曜授業の時の年数回しか見れずはっきりした事が分からないためありきたりな回答しか出来ません。我が子のように叱り褒め共に喜んでくれる先生もいれば、その日その時の感情で態度や言動が変わる先生もいるみたいです。意思疎通が大事なのではと感じます。互いに言葉が足りないというか。ですが日々楽しく登校しているので全体的にはとても良い学校だと感じております。 【校長回答】 本当にその通りであると感じております。コロナ禍で進めにくい時期の長かった児童を中心に据えた保護者と担任(学校)との直接交流の機会をこれまで以上に大切にしていきたいと考えております。また、教職員の児童・保護者への対応として不十分であると感じられる様子等がありましたら即時改善を促して参りますので、ご遠慮なく校長または副校長にお伝えください。今後ともどうぞよろしくお祈いします。
--

7時間、6時間授業した後に桜花タイムでひたすら計算等をやるのは意味があるのか疑問です。子供は疲れて集中力がないのでは？授業でわからなかった所を質問できる時間とかにして、疑問やわからない事をその日のうちに解決してほしい。 【校長回答】 桜花タイムにつきましては、授業6時間目終了時ではなく時間設定を変えて来年度からの運用を考えております。児童の全体的な傾向に鑑み、学力の定着を確実に図るために授業時間以外にも日常的な対策が必要であると考えていることをご理解頂ければありがたく存じます。令和6年度運用しながら、子供たちの様子についてまたお気づきのことがございましたらご連絡頂きたいと考えております。
---

私が学校行事に参加できていないので、それほど意見を言える立場では無いと思いますが、子どもの話を信じると、クラス内の問題を起こしがちな子に対して律するのを諦めたような態度を取っているとのことで、子どもたちからしたらエコ鼻風というか不公平だと感じているようです。直接伝えたこともあるそうです。先生も人なので気持ちはわかりますが、子どもに大人の事情は関係ないので、違った方法を取るべきかと思います。 【校長回答】 学級担任の様子から今後そうした様子が見られる、または感じられた場合、校長もしくは副校長にご連絡ください。事実確認の上、指導改善を早急を図って参ります。また、事実確認の上、必要に応じては保護者にご来校頂く必要がある場合もありますことをご承知おきください。
--

木曜日の7時間授業を他の曜日に移し、うまく学習することをお願いしたいです。 【校長回答】 「桜花便り3月号」でお示したとおり、7時間目の特設授業については、コロナ禍で心配された学力の確かな定着が全学年について確認できましたため、来年度の特設時間設定はいたしません。従来の時間割に近い形となりますので、桜花便り3月号をご確認ください。また、時間割変更に伴い、朝の登校時間につきましても午前8:15～8:25に変更となります。また、下校については6校時がある日については帰りの会終了後の15:30に変更となりますのでご承知おきください。
--

今の子は小さいぎこぎが多すぎます。家庭でも話を聞き解決策を見出してはいますが、学校でももう少し話し合う機会を作ってほしい。 【校長回答】 児童の学校生活場面で生じるトラブルについては、必要に応じて担任やその他の支援者による対応を図っておりますが、至らない場面があると感じられましたら、副校長までいつでもご連絡くださるとありがたく存じます。児童相互の状況を把握し適時性のある対応を進めていきたいと考えておりますのでご協力頂ければ大変にありがたく存じます。また、改めまして具体的な内容をお教えてください。
--

学年問わずコロナやインフルエンザが数名出た時点で周知してほしいです。過敏になる親子さんもいるかもしれませんが子供にマスク着用徹底させたいです 翌月の1ヶ月分の時間割を前日ではなく数日前に教えてもらえると助かります 【校長回答】 コロナやインフルエンザについては、例えば発熱した児童がいた場合、その後の症状も異なりご家庭の判断によっては病院での診断をお受けになられない場合等、学校として確定が困難な状況です。また、随時情報を把握するためのシステムもなく、個人が特定されない形での情報提供も難しいことをご理解ください。但し学校として学級閉鎖実施については従来以上に早い段階で判断し、学校生活中の罹患拡大を抑えられるよう配慮を継続しております。子供のマスク着用については、日常の使用は個人またはご家庭の判断に委ねておりますが、同学級内に複数のコロナ・インフルエンザ・胃腸炎の児童が発生した場合や発熱者が認められた場合には、学校の指示によりその学級についてはマスクを配布し着用を義務づけていることはこれまでのコロナ禍と同様に継続しております。最後の1か月分の時間割については、できるだけ早めに決定・連絡がご家庭にあった方がよいことは承知しておりますが、授業を担当する担任を含めた教員の出張変更や家庭事情での年休申請、各教科授業自体の単元進捗状況を調整するために必要な変更、天気によって左右される行事实施の有無等、1か月ごとのスパンでは前もって確定しにくい要因が多いことから翌月1か月分の時間割を事前に配布することはかなり困難であることをご理解頂けるとありがたく存じます。
--

二分の一、成人式はありませんか？子供の成長を感じられる機会を無くさないで下さい。 【校長回答】 多くの学校で行われてきていた二分の一成人式について、本年度別の名称と方法による実施に変更させて頂いています。これは成人が18歳になったからということだけでなく、多様な生育履歴や複雑な家庭状況をもつ児童もいる中で、それを振り返る教育活動が一部の児童にマイナス面に働く可能性があること、保護者に当日児童に渡してもらうお手紙の用意をお願いしたところ、担任教諭が長い期間お願いしても全員分そろえるために膨大な労力を要する場面がこれまでに何度も実際にあったこと、当日の参加は家庭の事情等により困難だったり、当日ご連絡もなく欠席となったり、一部の児童に悲しさを味わわせたりする場面が複数回あったこと、今後も学年集団特性や個々の児童状況がある場合、実施できる学年とできない学年が生じてしまうこと等の理由により実施が難しい状況です。児童の発達段階ごとに必要なけじめや将来を生きる意欲を膨らませる機会は適宜教育活動として確保しております。また、名称は「式」となっていますが、いわゆる学校行事として明確に位置づけられた「入学式」「卒業式」等の儀式的行事ではありませんのでこの点についてもご理解をお願いします。
--

欠席連絡が当日0:00~しかできないのは不便。当日の体調で気になることなどお知らせしたいことを欠席連絡のようにできたらありがたい。

【校長回答】

欠席等の連絡については、区小学校全体で統一したシステムを導入していることから、各個別の詳細な内容を相互に把握できにくい場面があることについて申し訳なく感じています。学校としても前述の別項目で回答したとおり、学級閉鎖実施の判断や各児童の様子について知りたい場面もあり、実際は詳細を知る場合には個別の電話連絡をしているのが実情です。桜花小学校としてどのような改善を図っていく必要があるか検討していきたいと考えます。

転校も視野に入れて日々を見えています

【校長回答】

学校としての十分な対応ができていないとの評価であると申し訳なく感じております。改善の必要な内容については随時諮っていきますので具体的に教えて頂ければ幸いです。

席替えやクラス替えなどもう少し考えてほしい。

【校長回答】

学級編成については学習理解・友達関係・個別対応必要性の有無等の複数の視点で校長・副校長・現学級担任・全専科教諭で十分な時間確保のもと毎回進めております。毎年度末に全学年の学級編成を行っていることから、毎年25から34名程度在籍している児童・保護者の全要望を完全に満たすことは当然困難なのですが、一定の配慮のもと実施していることはご理解頂けると助かります。また、席替えについても視力や背の高さ、特性への配慮する必要があるなどの教育的配慮に基づいて実施するよう指示しておりますので、何か支障があり直接担任に伝えにくい場合は、副校長までご連絡頂ければありがたいと存じます。よろしく申し上げます。

特に無いのですが、コロナ規制が緩和され、色々な事が正常化する中で、3年間で遅れた部分が本当に取り返せるのか、は不安です

【校長回答】

学力定着だけでなく、発達段階に応じたその時々に必要な経験をどのように補っていくことができるか学校としても更に考えて行く必要を感じています。